

いのちの大切さを学ぶ

津森小学校日奈久沖遭難事故から63年目



当時の同級生から事故の話聞く児童

今から63年前に修学旅行中の海難事故で亡くなった児童らを慰霊する「いのちの日」集会在11月5日、津森小学校で行われました。

昭和24年11月5日の午前10時14分ごろ、八代市日奈久沖で修学旅行中だった津森小学校児童が乗っていた遊覧船が転覆。児童22人、教師1人、校医1人の計24人が亡くなりました。

集会前に、辻ヶ峰公園内に建てられた慰霊塔で献花式が行われ、同小5・

6年生や遺族、地域住民約100人が参加。同小児童は、学校で育てたコスモスなどを供えました。

体育館であった集会では事故に遭ったもののおかげで同級生6人が、当時の様子を児童らに伝えました。大津町の佐藤澄世さんは「同級生の指の形を今でも覚えている。みなさん命を大切にしてください」と語りかけました。

北森光代校長は「子どもたちには自分の命とともに他の命も大切にしたい」と思いを語りました。

2施設のあり方を答申

益城町公の施設のあり方検討委員会から答申書を提出

町が設置している公の施設のうち、福祉施設の「養護老人ホーム葉山荘」と「町民憩の家」について、益城町公の施設のあり方検討委員会の答申が11月9日に井田貴志（県立大総合管理学部教授）会長から住永町長に提出されました。検討委員会は公募委員2人を含め10人で構成。本年6月から11月までに4回審議が行

われました。

答申では、葉山荘は民間移譲、町民憩の家は指定管理者制度への移行が望ましいとしています。

さらに、町民憩の家について施設自体の抜本的な改革の必要性も答申。町ではこの答申を受け、2施設についての今後のあり方について見直しの検討を行います。



答申書を手渡す井田会長

交通事故を防ぐために

安全協会津森支部が白線の塗り直し

安全協会津森支部（赤星眞澄支部長）がボランティア作業を行いました。

11月3日に同協会員20人が行ったボランティアは、塗料が剥がれて消えかかった白線や「止まれ」の文字の塗り直し。歩行者やドライバーが、道路上にある白線や文字の見落としによる交通事故を、未然

に防ぐ目的で毎年行われています。

「ボランティア精神で作業をお願いします」と支部長のあいさつ後、塗り直し作業が開始されました。

2班に分かれて行われた作業は約半日におよび、同時にカーブミラーも磨きあげられ、本来の輝きを取り戻しました。



塗料を塗る協会員のみなさん